

平成28年3月11日

八街市議会議長 加藤 弘 様

会 派 名 公明党
代表者名 新宅 雅子

先進地視察報告書

先進地視察の概要を下記のとおり報告します。

記

1. 視察者名

- ・ 新宅 雅子
- ・ 川上 雄次
- ・ 服部 雅恵
- ・ 角 麻子

2. 視察期間

平成28年1月28日(木)～平成28年1月29日(金)
(2日間)

3. 視察先及び視察目的

(1) 1月28日(木) 岡山県 備前市

- ① ふるさと納税の実績と地域経済活性化策について
- ② 「マイ保育園サポート事業」について

(2) 1月29日(金) 岡山県 総社市

- ① 新生活交通事業について
- ② ゴミ減量化への取り組み



4.

視察報告、その1

(1) 岡山県備前市

- ① ふるさと納税の実績と地域経済活性化策について
- ② 「マイ保育園サポート事業」について

◆市の概要

岡山県の南東部に位置する備前市は、中部に片上湾を擁し、西端には、岡山県三大河川の1つ吉井川が流れています。総面積の75%を山林が占めていることからまとまった平地に乏しく、都市空間が地形によって阻害され、人口の集中した集落が各地に分散して形成されています。昭和30年3月備前町、伊里町、香登町、(和気郡)鶴山村、(邑久郡)鶴山村が合併し備前町となり、昭和46年4月1日に備前町と三石町が合併して岡山県下10番目の市として備前市が誕生しました。現在人口は15,630世帯36,872人、を数えています。

◆視察時の状況

- ①視察時間 1月28日(木)午後2時から4時まで
- ②視察会場 備前市役所、委員会室
- ③応対者職氏名 備前市議会議長 田口健作
議会事務局長 草加成章
- ④説明者職氏名 総合政策部次長 佐藤行弘
総合政策部企画課 大西健夫

◆視察先調査事項の概要

(1) ふるさと納税の実績と地域経済活性化策についての調査事項

- 1、ふるさと納税の実績と地域経済活性化策について
- 2、ネット活用に至る経緯と事前準備で工夫した項目について
- 3、ふるさと納税、寄付金の活用策について
- 4、市民からの評価や成果について
- 5、今後の課題について

(2) 「マイ保育園サポート事業」についての調査事項

- 1、 マイ保育園サポート事業導入の経緯について
- 2、 登録者数と利用実績、評価について
- 3、 4～5歳児の保育料無料化について
- 4、 今後の課題について

◆調査事項に対する会派視察目的

上記の視察先調査事項の概要を精査し、八街市に合った施策実現へ調査研究を行い、議会提案、及び本市の街づくりに活かして参ります。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

備前市の人口は3万3,872人と本市の半分ほどの自治体であります。が、ふるさと納税への取り組みに優れた実績を上げています。また、子育て支援には独自のマイ保育園サポート事業を展開し成果を上げており、先進視察地として選択しました。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

地方自治体にとって貴重な自主財源である、ふるさと納税（本市の落花生の郷 やちまた 応援寄附金）は自治体間の財源獲得競争になっていきます。

備前市のふるさと納税の実績は、平成27年1月以前は月に5～6件、年間600万円程度と八街市と同等でありましたが、平成27年2月には、600件、2,000万円、の寄付があり、3月に928件、3,107万円、4月には1,256件、1億2,331万円と、月間一億円を達成し、以降、5月に1億621万円、6月に1億2,296万円と毎月、1億円を突破し、私たちが視察に訪れた、本年1月に直近の実績を伺ったところ、平成27年12月には年度末、確定申告へ向けて「ふるさと納税」が増えるの見込んで準備していたところ、12月だけで10億円を越える大きな寄付金が集まり驚いたとの報告をして頂きました。

行政規模では本市の半分ほどの備前市さんの素晴らしい「ふるさと納税」の取り組み（別紙、参考資料添付）は大変参考になり、学んだ事は、本市の事業に活かせる提案をして行きたいと思いました。

次に、「マイ保育園サポート事業」は、妊婦さんや子育てをしている母親等が、事業を実施している保育園をマイ保育園として登録し、出産前から4歳になるまで、保育士等から継続的に支援を受け、子育て応援のサポートが充実していました。平成27年4月にスタートした、子ども子育て支援新制度と合わせて、きめ細かい市民サービスを実施しており参考になりました。

「備前市、視察写真」



備前市議会、議場にて



備前市役所、委員会室での研修

視察報告、その2

(2) 1月29日(金) 岡山県 総社市

- ① 新生活交通事業について
- ② ゴミ減量化への取り組み

◆市の概要

総社市は、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市の2大都市に隣接しています。人口は68,124人(平成20年3月1日現在)、総面積は212.00平方kmで、地域の中央を北から南に岡山県の三大河川のひとつ高梁川が貫流し、年平均気温は16.5℃前後、瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた地域に有る市です。

◆視察時の状況

- | | |
|---------|--|
| ①視察時間 | 1月29日(金) 午前10時から12時まで |
| ②視察会場 | 総社市役所、第一委員会室 |
| ③対応者職氏名 | 総社市市長、片岡聡一
市民生活部部长、長江章行
議会事務局長、守安正道 |
| ④説明者職氏名 | 市民生活部交通政策課長 小原 純
市民生活部交通政策課主査 別府直樹
市民生活部交通政策課主事 石丸祐介
環境水道部次長(環境課長) 渡邊節夫
環境課美化推進主任 植田賢二 |

◆視察先調査事項の概要

(2) 1月29日(金) 岡山県 総社市

- ① 新生活交通事業について
岡山県総社市は新生活交通事業として平成23年から、デマント交通の「雪舟くん」を運行しており、その導入経緯と実状等を調査研究しました。
- ② ゴミ減量化への取り組みについては様々な手法でのゴミの減量化で20~30%も減量に成功しており、6つのリバウンド防止策や「ゴミ袋変動相場制」などユニークな取り組みがあり、調査研究しました。

◆調査事項に対する会派視察目的

デマンド交通の導入やゴミの減量化、雑がみの資源化は公明党がいち早く議会提案している項目であり、上記の視察先調査事項の概要を精査し、八街市に合った施策実現へ調査研究を行い、今後も議会提案、及び本市の街づくりに活かして参ります。

◆市政との関連性（視察地選択の理由等）

本市の課題として公共交通の利便性確保と家庭用ゴミの減量化は喫緊の課題であり、これらに大きな成果を上げている岡山県総社市は先進視察地に適していると判断し選択しました。

◆市政の課題等に対し参考になった点等

新生活交通事業では総社市は平成23年から、市内全域の運行とドア・ツウ・ドアのデマンド交通「雪舟くん」の導入にあたり、バス・タクシー事業者との共存共栄方式を行い、予約型の乗合方式で1人1乗車300円を実現し導入以来、毎年、一日の乗客数が増えて市民に喜ばれている点は、本市の公共交通施策を考える上で参考になりました。

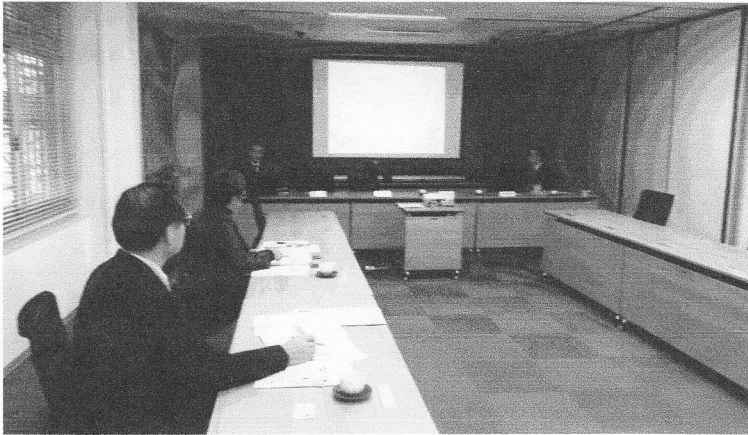
ゴミ減量化への取り組みでは市民団体による資源ごみ回収に対する報奨金制度やごみ減量サポーターなど、市民と協働でごみ減量化の推進をしており、ごみの量をもとに市指定ごみ袋の販売額を決める変動相場制を導入しているなど、極めて特徴的な施策を実行し成果を上げている。

また、ゴミの減量率が平成17年の20,454トンから平成27年には14,350トンへと30%もの減量化に成功しており、なかでも家庭用の燃えるゴミの約30%は雑がみでこの資源化に取り組んだ手法（資料添付）は大変参考になりました。

「総社市、視察写真」



総社市玄関で総社市、片岡聡一市長と



総社市、第一委員会室での研修